

2022年度通期	継続
----------	----

科目No.	関連講座GR515e	科目名	社会技術革新学事例研究5(論議の輪)				副題	社会変革と技術革新の歴史を検証し付加価値を生み出すイノベーションの真髄を探る			
連携機関名	社会技術革新学会	水準	中級	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	通年隔月第1水曜日 19:00-21:00	拠点 (開講機関)	リモート・横浜戸塚 (知の市場)
科目概要(300字)	人間は多様な危機(リスク)と機会(チャンス)の中で技術革新を起こし社会変革を成し遂げ生活の水準とその安全保障を向上する努力をしてきた。生活と社会を支える付加価値の意味と特徴を確認しつつ、その資源や技術との関係、生活や社会の構造変化との関係、貿易収支や国際収支との関係などを論じ、持続可能な発展に不可欠な諸課題を明らかにする。そして技術革新、人材改新、制度改革、社会変革が相互に影響し合うイノベーションの文理融合的な特徴を踏まえながら、イノベーションを進めるための方策を論じる。 今年度は、コロナ禍で顕在化した日本の情報化・IT化・デジタル化そしてシステム化における弱点の克服など、下に示す内容に捉われず参加者が提起する多様な論点に論議の輪を広げる。										

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
はじめに (これまでの復習)	1	イノベーションと 付加価値の維持・増大	科目の目指すところと講義の進め方について概説する。この科目の理解の基本となる技術革新、制度改革、人材改変、社会変革そしてイノベーションといった概念を概説するとともに、生活と社会を支える付加価値の維持・増大との係わりなどについて問題提起する。	2022/4/6	Zoomを 活用して リモート 開催。	増田 優	増田 優	お茶の水女子大学 名誉教授 早稲田大学 規範科学総合研究所 招聘研究員 社会技術革新学会 化学生物総合管理学会 会員
世界を変えた 日本発イノベーション の特徴と課題	2	成熟市場における 新たな価値の創造の実相	成熟市場の中で新たな市場を開拓した歴史や市場占有率が劇的に変化する歴史を有する具体的な製品分野を事例として取り上げ、イノベーションにおける技術革新の役割を検証しつつ、付加価値の創造のために必要な規範づくりを含めたものづくりの物語づくりへの昇華について論じる。	2022/6/1				
	3	国際情勢を規定した 日本の製品の実相	第二次世界大戦後の世界の構造を大きく変えた1950-60年代の植民地の独立や1970-80年代のイスラム革命などについて概観するとともに、その過程で日本製品が果たした役割を検証しつつ、その意味・意義と成否の要因を論じる。					
イノベーションを巡る 基本認識の変化と 各国の動向	4	国際競争力と技術革新に対 する基本認識の変化	国際競争力の構造的な変化は、日米貿易紛争を惹起する一方で、産業競争力の源泉は何か、イノベーションとは何か、技術革新とは何かというより根源的な問いをもたらした。米国における科学政策や産業政策の歴史と意味を中心に検証しながら、技術革新やイノベーションに対する基本的な認識の変化がもたらした構造改革(Restructure)や知的財産権戦略などについて論じる。	2022/8/3				
	5	諸外国における技術政策や 制度改革の展開	イノベーションに関する基本認識の変化とともに、世界各国で行われた科学政策、技術政策、産業政策、知的財産権政策などの改革について紹介するとともに、1995年の科学技術基本法や産業技術力強化法の制定などの模索の時代から脱却することを目指して行われた日本の諸々の政策や取り組みについて紹介しつつ課題を論じる。					
世界を変えた 米国発イノベーション の特徴と意味	6	科学政策と巨大プロジェクト の 特徴と意味	科学政策の成立・運営やマンハッタン計画、アポロ計画などのビッグプロジェクトの発足・実施の経過を検証しつつ、知力・腕力・体力で欧州を凌駕し名実ともに世界を先導する国になることを目指した米国の政策の成否を決めた要因と社会的な影響の広がりについて論じる。	2022/10/5				
	7	イノベーションにおける 理念の意味と・意義	1970-80年代の経済的な困難の後、GAFAなどの一国の存在を凌駕するほどの企業群の登場を促し米国の国際競争力の復活をもたらしたものは何かを論じる。また、その過程で取られた日米の政策の特徴を比較検証し、世界を先導するイノベーションを惹起する政策の要件を論じる。	2022/12/7				
まとめ	8	総合討論	明治維新から152年、第二次世界大戦の終結から75年、経済大国と呼ばれてから34年が経過し、その間に世界も日本も大きく変化を遂げた。この歴史を形作ってきた諸々の要因を検証しながら、日本の現状と課題について自由に討論する。	2023/2/1				